

令和4年度 むつみ家ももの木保育園 保育所自己評価

□評価日：令和5年1月31日

□対象者：常勤保育士(4名)

□評価項目：前年度保育所自己評価より見えてきた課題について、評価内容を絞り込み実施。具体的には、環境構成を含む保育内容及び子どもへの関わり方を中心に評価項目を設定。

□評価基準： A…確実にできている B…ほぼできている

C…あまりできていない D…ほとんどできていない

□方法：年度内半期ごとに保育士(常勤)が自己評価項目に基づいて各自自己評価を実施。その結果を踏まえて職員会議等で評価内容を検討、整理を行い課題を共有して以降の保育実践に活かす。下半期、保護者向けに「保育に関するアンケート(別紙)」を実施し、その評価及び下半期の自己評価を合わせて当該年度の保育所自己評価とする。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

【遊びの環境について】

	A	B	C	D
1. 自園の教育及び保育の方針を理解して保育している。		4		
		4		
2. 年間を通して戸外での遊びができるようにしている。	1	2		1
	1	2	1	
3. 室内や戸外で自然物に接する機会が豊かにある。	1	1	1	1
		3	1	
4. おもちゃは子どもの手の届きやすい所に置いている。		3	1	
		3	1	
5. 一人ひとりがじっくりと遊べるおもちゃ等の量や場所が準備されている(状況に応じて量の加減ができる)。		1	3	
		1	3	
6. 静的な活動がじっくり楽しめるように、動的な活動が交わらないように配慮している。		3	1	
		1	3	
7. 子どもの興味・関心、育ちに応じて遊具・用具・材料が自由に選べたり、目的によって選べたりする。		1	3	
		1	3	
8. 身近にあるものを使ったり、遊びに取り入れたりしている(段ボールや空き箱等)。		4		
		4		
9. 子どもが作ったものや掲示物の多くを、子どもの目の高さに置くなど、子ども同士で見合いながら遊びに生かせる工夫をしている。		2	1	1
		2	1	1
10. 各年齢の指導計画等により見通しを持ちながら、育ちや時期に応じて必要な教材を吟味している。		4		
		2	2	
11. 子どもが好きな遊びに満足できるような時間や場所が確保されている。	1	3		
		2	2	
12. 子どもが集団活動に加わったり離れたりできるよう、子どもの思いを大切にしながら、活動に柔軟性を持たせている。		4	1	
		4		

13. 集団に参加していない子どもへの配慮ができています。		3	
		4	
14. 子どもが実現したいこと、実現してほしいことを捉え、子どもの思いやイメージを生かしながら環境を再構成している。			4
			4

(評価)

後者二つの項目と比較しても、評価が分かれている項目が多く、問2, 3のように改善の傾向が見られたものもあるが、全体的に改善されないまたは評価が下がっている項目も目立ち、上半期の段階である程度課題が見えていたものの、こうした評価となったことについては反省し、次年度に繋げていく必要がある。

問5, 7は、おもちゃなどの遊びの材料が適切に用意・配置されているかに関わるものであるが、保育士の創意工夫による手作りおもちゃも多い一方で、職員の持ち寄りなども多く、上半期の段階でおもちゃの総点検を行い、入替えを進めていくこととしたが、思うように進展しなかった。問10の評価が下がっているもの、このことが影響していると思われる。おもちゃ、教材の選定等には、ある程度の時間も要するため、計画的に進めることができるようにしたい。

問6, 11は上半期より評価が下がっている。子どもたちが遊び込める時間と場所の確保に関わる項目だが、成長過程で子どもたちの興味・関心が広がり、活動性が上がったことなどにより、その対応にも影響が出ていると思われる。2階どんぐりるーむ(多目的室)の活用にも取り組んだが、今後遊びスペースの分化なども含め、検討を続けていきたい。

問9では、保育室、遊戯室等には子どもたちの作品や装飾などが飾られているが、必ずしも子どもの目線ではない。子どもの目線を意識して今後は展示等を工夫し、それが会話や遊びに生かせるようになるとうい。

問14は通年評価が低かったが、具体的な対応が難しい課題でもある。まだコミュニケーションが十分でない未満児の子どもたちの思いを汲み、どのように環境を整えることでその思いを実現できるようになるかは検討・模索の繰り返しが必要となる。答えがすぐに見つからない場合もあると思うが、こうした視点を常に持ちながら保育を実践したい。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

【保育者の援助について】	A	B	C	D
15. 長期の指導計画(年間・月間)に基づいて、子どもの育ちや課題に応じた援助を確認しながら計画的に保育を進めている。		4		
		4		
16. 子どもがしていることに興味や関心を寄せながら一緒に遊ぶことで、その思いや意味を理解しようとしている。		4		
		4		
17. 子ども一人ひとりの育ちに合わせた見守りや関わりをしている。		4		
		4		
18. 子どもとの会話をリードし、子どもが話しやすいように質問したり、声を掛けている。		4		
		4		
19. 子どもが感じたり、行動したり、経験したりしていることを言葉にして自覚化できるようにしている。		3	1	
		3	1	
20. 子どもと目を合わせながら話している。	2	2		
	2	2		

21. 子どもがコミュニケーションをとろうとしていることにタイミングよく肯定的に応答している。		3	1	
		4		
22. 子どもに関わる時は保育者の行動に言葉を添えたり、子どもの気持ちを言葉にしたりしている(オムツ交換、抱く、鼻を拭くなど)		4		
		4		
23. 子どもの気持ちを代弁したり、言葉にして伝えるように励ましたりしている。		4		
		4		
24. 保育者の判断基準にとらわれず、子ども一人ひとりのありのままを受け止め、肯定的に見守っている。		3	1	
		4		
25. 子どもの心の動きに沿って共に心を動かしたり、知恵(アイデア)を出し合ったりしている。		2	2	
		2	2	
26. 子どもが安心して自分なりの思いを表現できるように、その子なりの表現を大切にし、共感している。	1	3		
		4		
27. 子どもが表現したいことを感じ取っている。		4		
		4		
28. 子どもの気付きや考えから新たなやり取りが生まれ、活動が共有されていく満足感が味わえるようにしている。		4		
		3	1	
29. クラスサポートの保育士と情報を共有し、同じ方向性をもって保育が行えるようにしている。		4		
		4		
30. 個の活動、グループの活動、クラスの活動など、どの形態においても一人ひとりの子どもの心の動きに応じた援助をしている。	1	2	1	
		3	1	
31. 活動への取りかかりが遅い子どもの理由を推しはかり、その子なりのペースで取りかかれるようにしている。		4		
		3	1	
32. 同僚や上司と連携しながら保育を行っている。		4		
		4		

(評 価)

概ね適切に実践されており、個々の子どもたちの行動や思いに寄り添うことができている。また、保護者を対象とした「保育に関するアンケート」の記述回答においても、“いつも手厚く見ていただいている” “安心して預けることができる” “子どもの笑顔を見ると本当に楽しく通っているのがわかる”等、保育者として大変励みとなる評価をいただくことができた。問25について評価が幾分低く年間を通して改善できなかったが、遊び等の場面で、子どもたちの気持ちや思いがさらに派生し、大きな興味や関心となって一層遊びが深く展開し、幅が広がるような言葉掛けや行動ができるように意識したい。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

【子どもの人権について】	A	B	C	D
33. 子どもの目線に合わせ、いつもゆったりとして口調が温かく、微笑みのある表情を大切にしている。		4		
		4		
34. 子どもの言動を、否定的に捉えたり話したりしていない。		4		
		3	1	

35. いつも温かく親しみがあり、支持的なやり方(肯定的な関わり方)で子どもに応答している。		4		
		4		
36. 一人の人間として子どもに対応し、尊重する気持ちを表している。		4		
		4		
37. どの子どもにも分かりやすい言葉や伝え方を心掛けている。		4		
		4		
38. 個々の子どもの特性を理解し、一人ひとりに応じた関わりを心掛けている。		4		
		4		
39. 子ども同士を比べず、その子らしさを大切にしている。(ジェンダーの視点等)		4		
		4		

(評 価)

概ね適切に実践されている。今年度は全国的にも保育所での児童虐待、不適切な保育が大きな関心事となった。園内においても、児童虐待防止、子どもの人権・人格尊重についての内部研修会を実施し、再度確認を行った。今回の評価に慢心せず、これからも子どもたちの個性や気持ちに寄り添い、丁寧で細やかな保育実践に努めたい。